

バのバリアフリー

河原子小 六年

武士 楓彩

今ほわりとどこにでもあるバリアフリー。
「バリアフリー」は一度はみなさんが聞いたこと、見たことがあると思います。バリアフリーとは、多様な人が社会に参加する上で、の障壁をなくすることです。階段をスロープにしたり、手すりを付けたりするのが一般的に使われているかと思えます。

でも私は、バリアフリーのほうが大切かほと思いました。車いすに乗って階段のぼれないスリ、盲導犬を連れたの入店はダメなどのバリアを感じている人の身になって考え、私たちがその人達を助ける行動を起こすことが大切だと思えます。そのためには、様々な身の周りのバリアフリーを探して、バリアフリーの工夫に気づけば、障がいのある人ほどはそれを利用しやすくなると思います。私たちが積極的に声をかけるなどの配りよむすることが大切だと思います。私の

は、
「障がい者の『害』をひらがなにしないといけないうまい」

と聞いたことがありました。それは、「害」と書いてしまうと、負のイメージが強い。ため差別になってしまいうからと考える人もいます。この「害」をひらがなで書くこともひとりひとりの思いやりだと私は思うので、心のバリアフリーになるのではないのでしようか。また、「コミュニケーション」をとる

ことも大切だと思います。バリアより、支障を受けている人に対してどのような配りが必要か、また違う言い方でコミュニケーションをとりたいと思

いました。
また、障がいの有無にかかわらず、困っている人、高齢者にも、どんな立場でも安心して自由に生活するために、ひとりひとりが多様な人のことを思いやる、心のバリアフリーが大切だと分かりました。